

船橋市の生物多様性の現状と課題に関する資料

1. 市民・事業者等の生物多様性に対する意識や取組状況に関する調査

(1) 市民及び中高生アンケート

① 生物多様性の認知度

	年度	対象	回答率
戦略策定時	2012(平成24)	市民	44.2%*
戦略改定時	2020 (令和2)	市民	50.0%
今回	2025 (令和7)	市民	65.0%
		中高校生	58.8%
環境基本計画 進行管理	2024 (令和6)	市民	40.2%*

*意味まで知っているかを聞き、意味まで知っているとして回答した人

② 自然とのふれあいの状況

	年度	対象	生き物観察	花・野菜の 育成	自然観察会 への参加	登山・ハイ キング	公園・自然 の中での散 策等	ふれあって いない
戦略改定時	2020 (令和2)	市民	12.3%	49.6%	1.4%	20.3%	-	30.8%
今回	2025 (令和7)	市民	5.4%	41.3%	0.8%	14.6%	59.2%	19.2%
		中高校生	15.5%	26.0%	1.3%	7.7%	42.6%	36.9%

③ 市内の自然環境への認識

市内は自然が豊かか

	年度	対象	豊か	まあまあ豊 か	あまり豊か でない	豊かでない	わからな い・その 他・未回答
戦略策定時	2012 (平成24)	市民	5.3%	42.9%	35.0%	15.0%	1.3%
戦略改定時	2020 (令和2)	市民	11.6%	54.0%	20.3%	6.5%	7.6%
今回	2025 (令和7)	市民	7.1%	52.9%	27.1%	7.5%	5.4%
		中高校生	13.9%	50.8%	21.5%	3.8%	10.0%

10年前と比較してどうか

	年度	対象	良くなった	悪くなった	変わらない	住んでなかった	わからない or未回答
戦略策定時	2012 (平成24)	市民	2.7%	31.9%	35.0%	30.1%	0.4%
戦略改定時	2020 (令和2)	市民	6.2%	26.1%	33.7%	13.4%	20.6%
今回	2025 (令和7)	市民	4.6%	30.0%	34.2%	21.3%	10.0%
		中高校生					

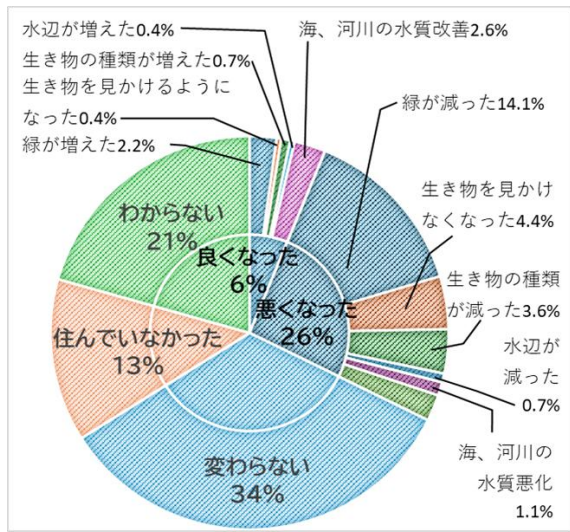
良くなった理由

	年度	対象	緑増えた	生き物見 かけた	生き物種 類増えた	水辺増え た	海、河川 の水質改 善	その他等
戦略策定時	2012 (平成24)	市民						
戦略改定時	2020 (令和2)	市民	35.3%	5.9%	11.8%	5.9%	41.2%	0.0%
今回	2025 (令和7)	市民	36.4%	9.1%	9.1%	0.0%	36.4%	9.1%
		中高校生						

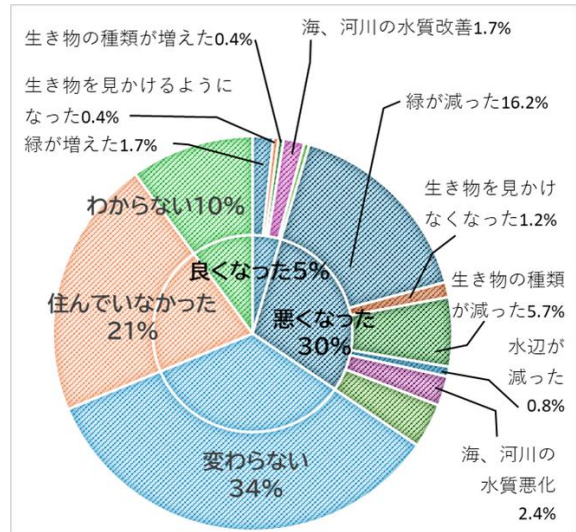
悪くなった理由

	年度	対象	緑の減少	生き物の 減少	生き物種 類の減少	水辺の減 少	海、河川 の水質悪 化	その他等
戦略策定時	2012 (平成24)	市民						
戦略改定時	2020 (令和2)	市民	54.2%	16.7%	13.9%	2.8%	4.2%	8.3%
今回	2025 (令和7)	市民	54.1%	4.1%	18.9%	2.7%	8.1%	12.2%
		中高校生						

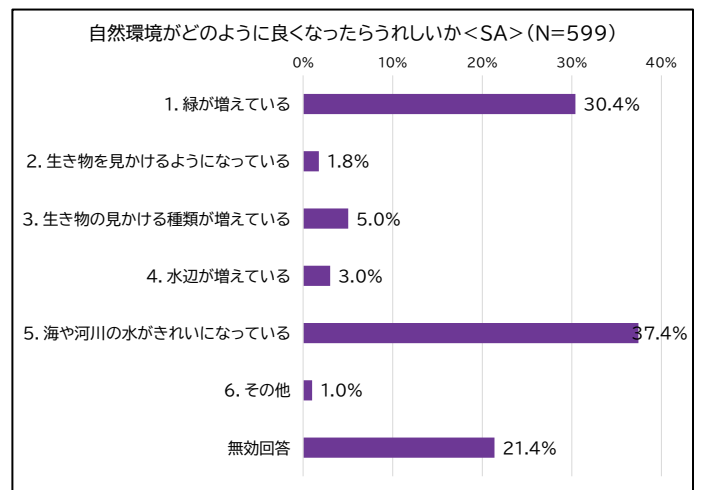
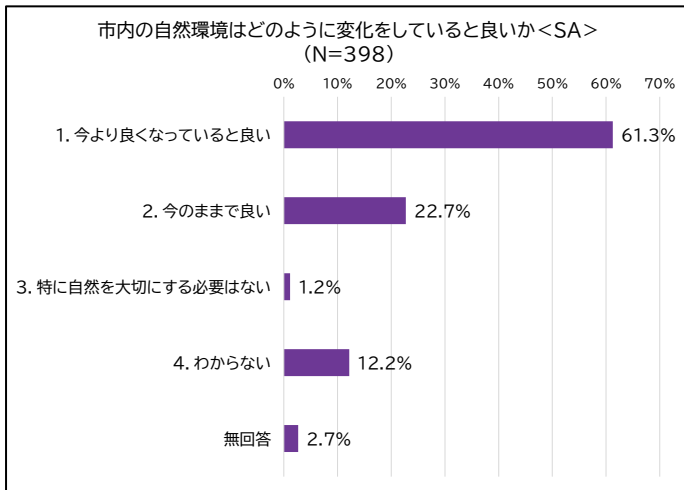
2020(令和2)年度



2025(令和7)年度



【中高校生アンケートより】



【緑の基本計画より】

緑への満足度

年度	多くある	満足できる程度	少ないがある	ない	無回答
2005 (平成17)	10.0%	24.0%	57.0%	9.0%	0.0%
2014 (平成26)	12.8%	30.0%	49.1%	7.6%	0.5%
2024 (令和6)	11.9%	32.9%	48.5%	5.5%	1.2%

10年前に比べた緑の量

年度	増えている	あまり変わらない	少しずつ減少	急速に減少
2005 (平成17)				
2014 (平成26)	7.1%	40.0%	37.0%	11.1%
2024 (令和6)	2.4%	41.7%	26.7%	8.7%

④ 自然環境に配慮した取組

	年度	対象	情報に触れる	調べる	話題にする	発信する	エコバック持参	食べ残しなどを排水口へ流さない	地元の活動に参加	自然観察会へ参加	身近な場所で生き物の居場所づくり	環境にやさしい商品の購入	地産地消	洗剤の適正量使用	雨水の有効利用	ペットの飼育責任	募金	特になしまたはその他*
戦略改定時	2020 (令和2)	市民	-	-	-	-	88.4%	67.8%	9.1%	1.4%	21.0%	16.7%	42.4%	54.0%	3.6%	33.7%	7.2%	4.3%
今回	2025 (令和7)	市民	27.5%	22.5%	26.3%	3.8%	-	-	6.3%	0.4%	29.2%	15.8%	42.9%	55.8%	1.7%	34.2%	7.9%	7.5%
		中高生	25.2%	20.9%	24.2%	5.3%	-	-	6.0%	2.5%	16.4%	15.2%	14.0%	43.4%	3.0%	35.9%	6.0%	14.2%

*市民は、特になしの場合はその他を選ぶよう設問に記載

*中高生は、特になしが13.5%その他が0.7%

⑤ 市に期待する取組

	年度	対象	野生生物の保護	水辺の環境整備	里地里山保全	水質改善	海洋プラスチック排出抑制	環境に配慮した開発誘導	緑地等の整備	外来性生物対策	調査研究の推進	教育・イベント	団体・事業者支援	情報提供	特になし	その他
戦略策定時	2012 (平成24)	市民	24.3%	-	-	61.5%	-	-	77.9%	24.3%	-	50.0%	31.0%	14.2%	-	3.4%
戦略改定時	2020 (令和2)	市民	49.6%	76.8%	-	69.9%	51.1%	40.9%	64.9%	37.7%	25.4%	31.2%	27.9%	39.5%	0.4%	3.7%
今回	2025 (令和7)	市民	41.7%	72.5%	32.9%	63.3%	51.3%	43.3%	62.1%	42.9%	25.8%	24.2%	27.1%	31.3%	2.5%	1.3%
		中高生	50.9%	61.6%	18.9%	52.6%	59.1%	30.9%	44.9%	34.6%	25.4%	24.0%	23.9%	27.4%	8.0%	0.8%

(2) 事業者アンケート

① 事業活動と生物多様性の関係についての認識

事業活動との関係

	年度	事業活動と関係があり重要視している	事業活動と関係があるが、重要視していない	事業活動との関係は小さく、重要視していない	事業活動との関係を把握していない	回答事業者数
戦略策定時	2012 (平成24)	8.0%	8.0%	60.0%	24.0%	25事業者
戦略改定時	2020 (令和2)	29.9%	14.9%	34.3%	19.4%	67事業者
今回	2025 (令和7)	23.1%	16.7%	30.8%	29.5%	78事業者

生物多様性への影響

	年度	土地改変等による生き物の生育・生息地の変化	生物資源の過剰採取	外来種の移入	汚染原因物質の排出	温室効果ガスの排出による気候変動	その他
戦略策定時	2012 (平成24)	12.0%	12.0%	16.0%	20.0%	68.0%	8.0%
戦略改定時	2020 (令和2)	18.8%	6.3%	10.9%	23.4%	76.6%	10.9%
今回	2025 (令和7)	12.8%	7.7%	5.1%	20.5%	76.9%	5.1%

享受している自然の恵み（生態系サービス）

	年度	食料	木材・紙・ 繊維	生物を原料 とした燃料	飼料・肥料	飲用水、工 業用水、農 業用水等と して医療す る淡水	遺伝子資 源、生化学 物質や薬の 原料	森林等によ る土壌侵食 の防止	自然災害の 防止・緩和	微生物等に よる水質浄 化や有機物 の分解	疫病の予防	昆虫等によ る花粉媒介	自然の中で の娯楽や旅 行	その他	わからない
戦略策定時	2012 (平成24)	44.0%	52.0%	20.0%	20.0%	40.0%	8.0%	8.0%	12.0%	16.0%	8.0%	8.0%	8.0%	0.0%	24.0%
戦略改定時	2020 (令和2)	42.4%	42.4%	19.7%	10.6%	40.9%	12.1%	7.6%	30.3%	21.2%	13.6%	7.6%	6.1%	0.0%	18.2%
今回	2025 (令和7)	41.0%	41.0%	12.8%	12.8%	38.5%	7.7%	6.4%	21.8%	16.7%	12.8%	6.4%	5.1%	1.3%	17.9%

② 生物多様性の保全や利用に関する取組

実施または実施を検討している取組

	年度	事業所内の生き物の生育・生息状況についての調査	事業計画策定において事業活動による生物多様性への影響評価	原材料における配慮	外来種を拡散させない配慮	汚染原因物質の排出等の配慮	社内教育	自然保護・再生活動	里地里山管理	NPO・NGO等への支援	事業所外を対象とした啓発	温室効果ガス排出低減	その他	取組はない
戦略改定時	2020 (令和2)	1.5%	6.0%	10.4%	3.0%	22.4%	7.5%	11.9%	3.0%	1.5%	3.0%	50.7%	6.0%	23.9%
今回	2025 (令和7)	6.4%	1.3%	5.1%	0.0%	17.9%	12.8%	11.5%	1.3%	2.6%	2.6%	35.9%	1.3%	38.5%

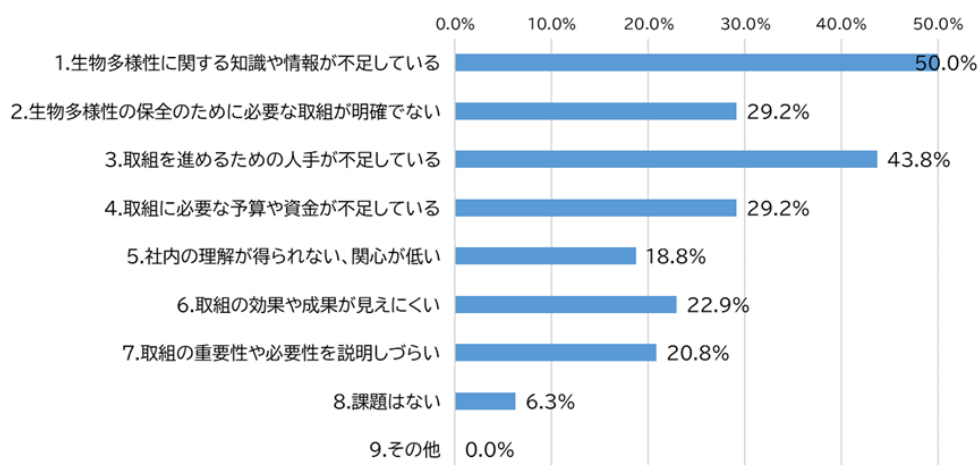
取組を実施または実施を検討している理由

	年度	事業と関連性があるため	事業機会の創出につながる可能性があるため	社員への環境教育として	事業活動に対する地域の理解を得るため	企業の社会的責任として	SDGsへの取り組み事例として活用できるため	金融機関や投資家へのPRのため	その他
今回	2025 (令和7)	43.8%	2.1%	14.6%	16.7%	37.5%	20.8%	4.2%	6.3%

取組を実施または実施を検討していない理由

	年度	生物多様性の認識不足	どのように実施すればいいか不明なため	事業との関連性が薄いまたはないため	経営的余裕がないため	メリットを感じないため	社内合意が取れないため	その他
戦略策定時	2012 (平成24)	57.1%	47.6%	57.1%	19.0%	4.8%	0.0%	9.5%
戦略改定時	2020 (令和2)	41.9%	41.9%	64.5%	35.5%	12.9%	0.0%	0.0%
今回	2025 (令和7)	30.0%	23.3%	50.0%	10.0%	10.0%	6.7%	0.0%

取組を進める上での課題<MA>(N=48)

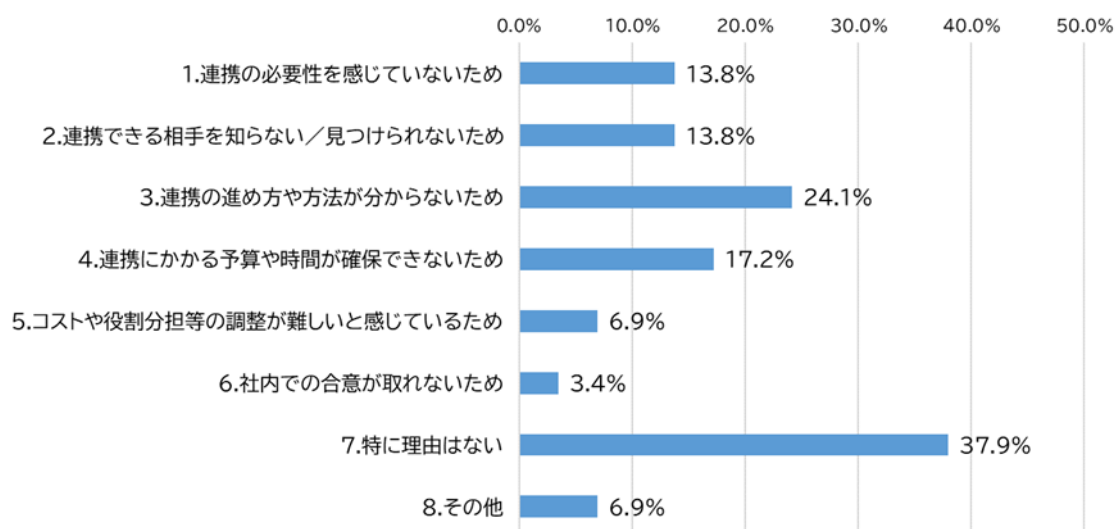


③ 他の主体との連携

連携の意向

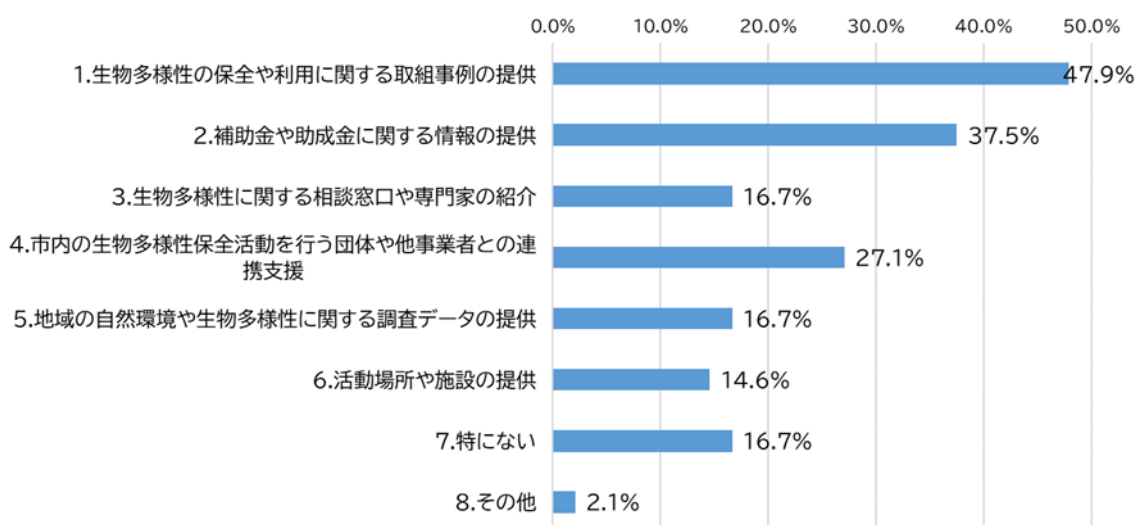
	年度	国	地方自治体	大学	大学以外の教育機関	NPO・NGO	企業・事業者等	その他	意向なし
戦略改定時	2020 (令和2)	6.0%	9.0%	4.5%	4.5%	3.0%	9.0%	1.5%	86.6%
今回	2025 (令和7)	25.0%	37.5%	16.7%	6.3%	16.7%	22.9%	8.3%	31.3%

連携した活動がない場合、連携の支障となっている理由<MA>(N=29)



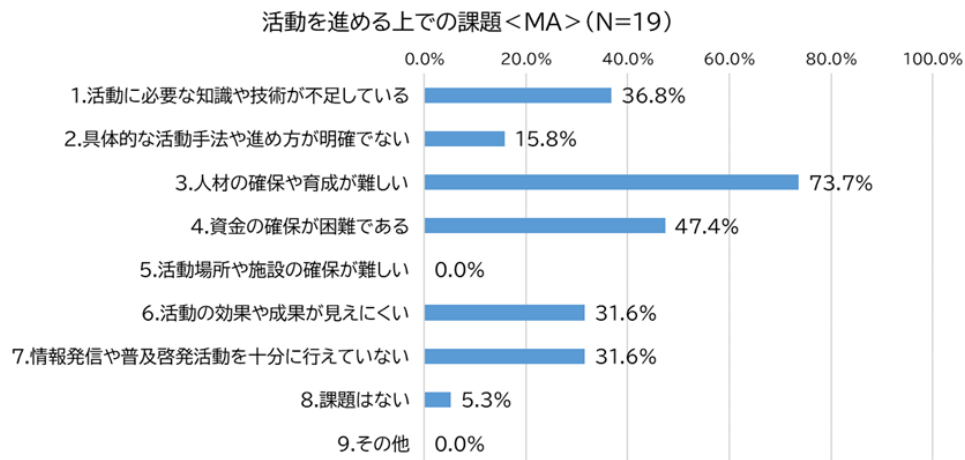
④ 市に期待する取組

今後必要と考える市からの支援<MA>(N=48)



(3) 市民団体アンケート

① 活動をする上での課題



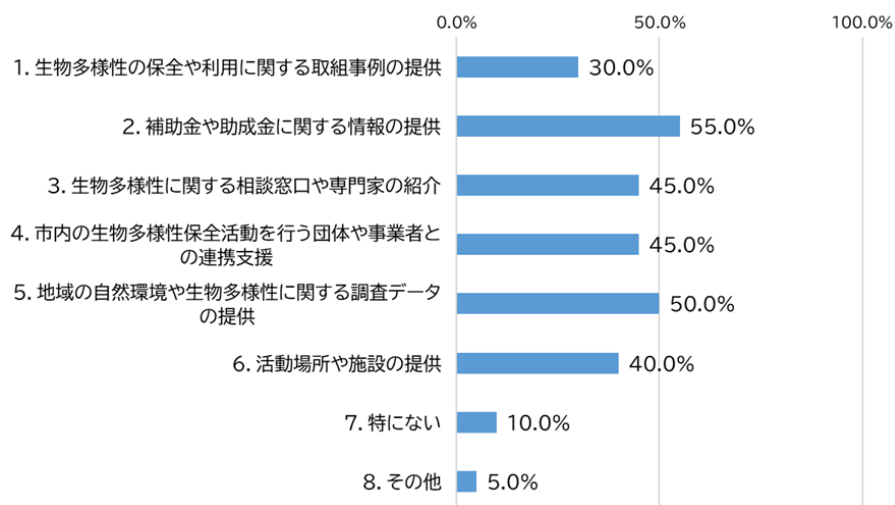
② 他の主体との連携

連携を希望する主体

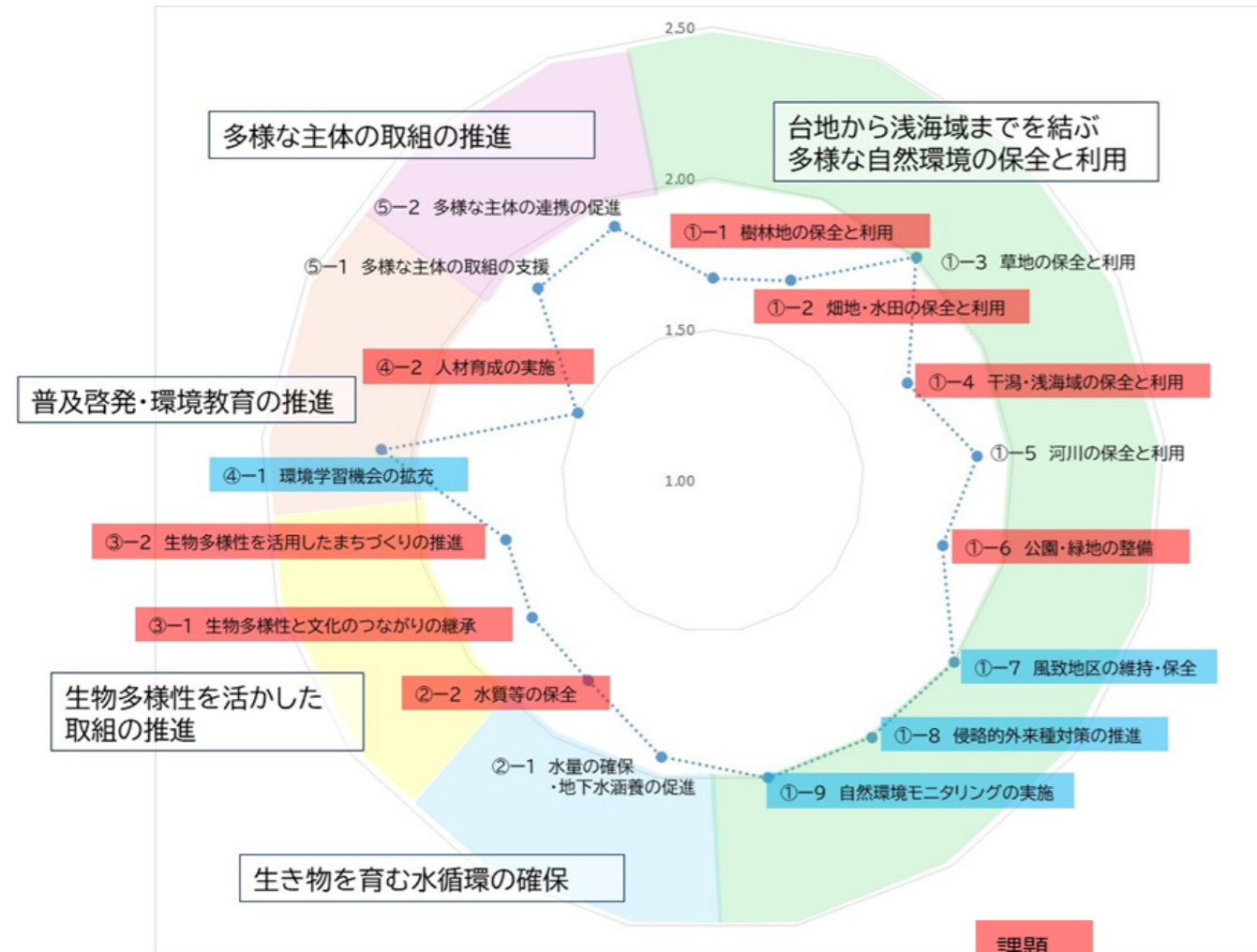
	年度	国	地方自治体	大学	大学以外の教育機関	NPO・NGO	企業・事業者等	その他
戦略策定時	2012 (平成24)	0.0%	60.0%	26.7%	13.3%	26.7%	33.3%	20.0%
戦略改定時	2020 (令和2)	16.7%	91.7%	25.0%	33.3%	33.3%	25.0%	16.7%
今回	2025 (令和7)	21.1%	94.7%	42.1%	31.6%	63.2%	42.1%	21.1%

③ 市に期待する支援

今後、活動に必要と思われる市からの支援<MA> (N=20)



2. 現戦略の取組の進捗状況



比較的遅れがみられる取組等から抽出する現状

基本的な施策		現状																								
①-1	樹林地の保全と利用	宅地開発に伴う帰属による都市緑地の新規開設や借地による既存の都市緑地の拡張等を行っているが、宅地開発による指定樹林地の解除、樹木の伐採が多くみられている。また、所有者の高齢化等により維持管理が行き届いていない樹林地がある。																								
①-2	畑地・水田の保全と利用	農業者の農地の利用意向の把握に努め、担い手への農地の集積をはかることで、遊休農地(耕作放棄地)の解消と発生防止に努めている。一方、耕作放棄地を活用するふさと農園については、周知等は実施しているが、立地条件や園主の意向もあり、区画数は減少傾向にある。																								
①-6	公園・緑地の整備	宅地開発に伴う帰属等による都市公園の新規開設や既存の都市公園を3箇所拡張を行っているが、近年では土地の確保が難しいこと等から、大幅な面積の増加はなくなっている。																								
①-4	干潟・浅海域の保全と利用	水質などの保全については、河川のBOD環境基準達成率が100%であることから、流入水質の改善等の取組による一定の効果が見受けられるものの、当初の目標値に達していない取組があることから、評価が低くなっている。 一方で、海域の水質においては、以下、3項目で基準値を下回る数値も年度もある状況である。																								
②-2	水質等の保全	<table border="1"> <thead> <tr> <th>状態指標 (海域の水質)</th> <th>基準値 (R2)</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>目標値 (R8年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全窒素の環境基準達成率</td> <td>75%</td> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>75%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>全りんごの環境基準達成率</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>CODの環境基準達成率</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>50%</td> <td>75%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	状態指標 (海域の水質)	基準値 (R2)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (R8年度)	全窒素の環境基準達成率	75%	50%	25%	75%	100%	全りんごの環境基準達成率	50%	0%	0%	0%	100%	CODの環境基準達成率	75%	75%	50%	75%	100%
		状態指標 (海域の水質)	基準値 (R2)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (R8年度)																			
		全窒素の環境基準達成率	75%	50%	25%	75%	100%																			
全りんごの環境基準達成率	50%	0%	0%	0%	100%																					
CODの環境基準達成率	75%	75%	50%	75%	100%																					
地球温暖化対策に寄与する市街地における公園・緑地等の配置は十分な土地の確保は難しく、また、生物多様性と文化を関係づけての事業実施も難しいことが現状である。また、生物多様性(自然)を活かした観光についても十分に進んでいないのが現状である。																										
③-1	生物多様性と文化のつながりの継承	地球温暖化対策に寄与する市街地における公園・緑地等の配置は十分な土地の確保は難しく、また、生物多様性と文化を関係づけての事業実施も難しいことが現状である。また、生物多様性(自然)を活かした観光についても十分に進んでいないのが現状である。																								
③-2	生物多様性を活用したまちづくりの推進																									
④-2	人材育成の実施	ふなばしエコカレッジにおいては、卒業生数が目標人数に達していない状況である。また、指標としては、基本的な施策⑤-1に含まれるが、卒業後の体験入団数についても目標値に到達していない状況である。																								



取組が順調に進んでいる

基本的な施策			
①-7	風致地区の維持・保全	①-9	自然環境モニタリングの実施
①-8	侵略的外来種対策の推進	④-1	環境学習機会の拡充

課題

関連する基本的な施策	視点	課題
①-1、①-2	民有地における自然環境保全	大部分が民有地である、樹林地、農地などの保全については、地権者だけではなく、様々な主体が関係する取組が必要である。
①-4、②-2	広域的な視点での海域での水質保全	東京湾の水質は、流域の1都3県から流入する汚濁や沿岸・海底の地形のほか気象条件にも大きく左右されるものであることから、状況を注視するとともに、広域的な連携が必要である。
①-4、③-1、③-2	自然の多面的機能の活用	地球温暖化対策(防災・減災、ヒートアイランドの緩和)、水質浄化、文化・レクリエーション等の自然の多面的機能の理解を深め、都市公園の拡充等、その発揮を見据えた取組が必要である。
④-2、(⑤)	持続可能な自然環境保全を見据えた人材育成	ふなばしエコカレッジ事業の改善等を含め、継続的に人材育成を進め、持続可能な自然環境保全に向けた仕組みを整えていく必要がある。